

松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

|                                                                                                                                                                                       |                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| <p>会議・研修会名</p> <p>令和8年度 第2回こども部会</p>                                                                                                                                                  | <p>開催日：令和8年7月14日（火）</p> <p>時 間：10:00～11:20</p> |
| <p>参加者構成機関名</p> <p>松本児童相談所・長野県松本支援学校・長野県信濃学園・松本市こども発達支援課・障害児通所支援事業所さわやか・株式会社ぼのkid's・相談支援センターライフアシスト・松本市こども福祉課<br/>松本市障がい者基幹相談支援センター（事務局）</p> <p style="text-align: right;">計 10 名</p> |                                                |

会議内容

1. 事務局より

- ・6月に行われた令和8年度第1回松本市自立支援協議会についての感想を聞く。

2. 第1回児童発達支援等事業所グループ会の報告

- ・保育所等訪問に取り組んでいる事業所がいくつかある。OTの巡回や病院との連携も行っている。また、お互いの事業所を見学し合うところもある。
- ・保育園や幼稚園とお互いに5領域のチェックを行っている。
- ・利用している児童の保護者が集まって保護者会を行っている。
- ・インクルーシブセンターより：ふたばネットワークの活用を推奨。医ケア児だけを行っていたが、現在は発達障がい児にも利用できるように広げている。支援者同士のやり取りもできる。全園、全学校が登録し、秘匿性は高いとのことである。

3. 第1回放課後等デイサービス事業所グループ会の報告

- ・支援会議に保健師や主治医が参加しているところがある。主治医が参加することで、服薬の説明を聞くことができ、保護者にも話の内容が入りやすい傾向がある。
- ・学校は、放ディのことがよくわからない場合が多いので、学校の先生たちに放ディのことを知ってもらう機会があるとよい。結局、地域校の特別コーディネーターの先生の方によって、連携のとりやすさに影響があるように感じる。
- ・保護者が精神疾患を抱えていたり、生活に支援が必要な家庭へのサポートに対して、どこと連携していけばよいのかわからない。

4. シンポジウムについて

- ・日時：12月7日（月）10時～12時
- ・場所：松本市勤労者福祉センター 1階 大会議室
- ・テーマを多職種連携とし、シンポジストに、事業所職員、保育園、地域校の支援級担任、児童相談所、インクルーシブセンターから登壇してもらい、それぞれから事例発表を行う。その後、質疑応答を行う。
- ・参加者は、各事業所職員（児童発達、放課後等デイサービス、相談支援）、保育園、幼稚園、学校、医療等を考える。

5, Q-SACCS について

- 7 月 1 日（水）にインクルーシブセンターで講義を聞き、グループワークを行った。その中で、福祉サービスにすき間ができることがわかり、その部分をどうしていくかを考えることができた。
- いろいろな職種がいることで、グループワークでの話し合いが充実していた。

6, その他

- 当事者主体部会のお知らせ：9 月 4 日（金）13 時半～15 時  
ハートラインまつもとの皆さんの話を聞く。

以上